16・17 世紀のイエズス会の教育評価
―記号や数値を用いた評価の嚆矢か？―

椎名　乾平

1．はじめに

教育評価で用いられる，「評価観点を定めて，記号や数字で評定あるいは段階付けを行い，必要があれば平均等を用いて総合点を求める」という方法はどのように成立したのだろうか？ 例えば GPA（Grade Point Average）がこのような方法の一例である（椎名，2023）。根拠が今一つ明快でないこの教育評価法の源泉は古く，生徒に単語による段階をつけた例は 15 世紀のルーヴァン（Louvain）大学でみられるという（椎名，2022）。また本稿の主題となるイエズス会では，1599 年の「イエズス会学事規程」（Ratio Studiorum）において「優（optimus），良（bonus），可（mediocris），疑（dubius），原級留置（retinendus），および退学処分（reiiciendus）の 6 段階で成績をつけ，これを 1，2，3，4，5，6 の数字で示してもよい」とされている（原文ラテン語，坂本雅彦訳，2008，p. 33，ただし手を加えた部分がある）。これは Grade の使用とその数字への変換が行われた古い例で，さらに数値化法が明文化されているところが特筆できる。

イエズス会学校では早くも 16 世紀に，すなわち心理測定学や教育測定学誕生のはるか前から，現在と同様の Grading が行われていたことになるが，このことは心理学史でも教育（評価）史でもあまり言及されていない。言及されている場合でも DuBois（1970，p. 143），池田（1978，p. 12），梶田（1992，p. 320）のように 1599 年に筆記試験の実施規則が決まったという記述しかない。現在日本の Grading 型成績評価法は，1900 年代から始まる米国の教育測定運動や江戸時代の藩校や私塾から続く伝統的評価法（天野，1993，p. 21；橋本，1993）を直接の起源とするのだろう。しかしそれらより数百年も前から同様の評価法が日本も含む全世界に広がったイエズス会学校で使われていたのは，教育評価のみならず数量化の問題としても興味深い。そこで，16 世紀 17 世紀のイエズス会の教育評価法を現在の評価法と比較検討しながら紹介しようというのが本論文の目的となる。

周知のとおりイエズス会学校は我が国にもあった。成績のつけ方には触れられていないが 1580 年に発布された「日本のセミナリヨ規則」というものもあり（有馬のセミナリヨ建設構想策定委員会，2005，pp. 20–26），その教育思想は「イエズス会学事規程」の精神に基礎を置くものだった

表 1　イエズス会の有馬のセミナリヨの名簿（1588 年）　70 人中冒頭の 6 人

氏　名	出身地	年齢	健康	入学年	ラテン語	音　楽	日本語
溝口アゴスチノ	大村	20	良	1580	ラテン語第二級の講師	bene	bene
西ロマノ	有馬	19	良	1580	第一級	mediocriter	mediocriter
北（喜多）パウロ	有馬	18	良	1580	第一級	optime	mediocriter
大多尾マンショ	大村	20	良	1581	第一級	bene	mediocriter
堀江レオナルド	平戸	17	良	1581	第一級	bene	mediocriter
みなしマチヤス	大村	15	良	1581	第二級	moderate	moderate
：	：	：	：	：	：	：	：

Optime＝秀，Bene＝優，Mediocriter＝良，Moderate＝可
「ラテン語第二級」の講師とは，第二級で TA をしているということらしい。
出典　1588 年のセミナリヨの学生名簿（有馬のセミナリヨ建設構想策定委員会，2005，pp. 57–73 より抜粋・改変）

（Cieslik, 1966, p. 28）。表 1 は 1588 年に作られたイエズス会の有馬セミナリヨの名簿の一部分であり（有馬のセミナリヨ建設構想策定委員会，2005，pp. 57–73 より抜粋・改変），Grading 型の成績がつけられている。先に述べた「イエズス会学事規程」（1599 年版）は最終版であり，この名簿より後に発布されたものだが，「学事規程」には 1586 年版もあり 1588 年時点では改訂中だったはずで，1588 年の「名簿」は Grading という点で共通点を持つ評価システムなのが見て取れる。表 1 や有馬セミナリヨについてはセクション 3. で検討したい。

2．イエズス会学事規程（Ratio Studiorum）

イエズス会はイグナティウス・デ・ロヨラ（Ignatius de Loyola, 1491–1556）やフランシスコ・ザビエル（Francisco de Xavier, 1506–1652）らによって 1534 年に設立され，宗教改革に対するカトリック方のリアクションの担い手でもあった。当初は教育活動を目的としなかったが，やがてメッシーナやローマの学院を手始めに，聖職候補だけではなく一般の人々にも高度な教育を行うようになり，例えば後年デカルト（René Descartes, 1596–1650）がイエズス会のラフレーシュ（La Flèche）学院で学んだのは有名である。イエズス会学校は世界中に広がり日本でも戦国時代にセミナリヨ（Seminario）やコレジヨ（Colegio＝コレギウム＝コレージュ）などが開かれた。

イエズス会は世界中に広がった学校の統一的教育・経営方針として 1599 年にそれまでの数十年間の教育経験と協議を踏まえた上で「イエズス会学事規程」（Ratio Studiorum）を定めた。海老沢（1958a，p. 7）は「基礎的教義課程から諸科学の専門課程に至る組織的・系統的学制は，世界教育史上，まさに画期的なものであり，近世教育の先駆をなしたものである」と高評価する。その内容は教育内容，教育方法，学級運営についてのかなり詳細な規則である。原文はラテン語だが各国語

の翻訳がある。すなわち独訳（Duhr, 1896），仏訳（Demoustier, et al., 1997），英訳（Farrell, 1970 ; Pavur, 2005），日本語訳（坂本，2005，2008；ロバート・キエサ，2023）などが挙げられる。

本稿のテーマである数値や記号による Grading については，「学事規程」の「下級諸クラス教師のための共通規則」第 38 条に（原文ラテン語，坂本雅彦訳，2008，p. 33，ただし手を加えた部分がある）に記述されている。

［成績表］第 38 条　教師はアルファベット順に作成された生徒たちの成績表を学習監に手渡さねばならない。そして，教師は，もし必要があれば［記載事項］の変更ができるように，学年途中に時々，この成績表を閲覧するものとする。特に，生徒たちの一般試験が迫ってきたならば，注意の上にも注意を重ねてこれを閲覧しなければならない。ところで，この成績表の中で，教師は生徒たちの程度をできるだけ数多く区別しなければならない。すなわち，優（optimus），良（bonus），可（mediocris），疑（dubius），原級留置（retiendus），および退学処分（reiiciendus）の区別である。なお，これらは 1，2，3，4，5，6 の数字によって示してもよい。

ロバート・キエサ（2023，pp. 197–198）も参照されたい。上の文章の正式の名称は「イエズス会学事規程の下級諸クラス教師のための共通規則第 38 条」であるが，長いので以後「学事規程 38 条」と略記することにする。ただ「学事規程」には別の 38 条も存在するのに留意されたい。

尚 Pavur（2005，p. 151）による英訳では

[362**]** ***Register***

38. He should turn in to the prefect a register of students, written in alphabetical order. From time to time during the year, he should review it, so that it can be changed if there is any need; but he should do this very carefully when the general examination of the students is near. And in the register he should distinguish the levels of as many students as he can; namely, the best, the good, the average, the doubtful, those to be kept, those to be expelled.

These marks can be signified with the numbers 1, 2, 3, 4, 5, and 6.

である。

2.1 「学事規程」にはどのような背景があるか？

いくつかの統計から当時のイエズス会が「巨大」教育機関だったのがわかる。「彼らは 1579 年にはヨーロッパ圏内に 180 校，その他の地域に 19 校のコレギウムを擁していた。これが，1608 年にはヨーロッパ圏外の 28 校を加え全部で 293 校，そして 1710 年には全 612 校，うち海外 95 校とな

る。イエズス会の全体としての規模を，これらと同じ年について見ると，それぞれ，会員数は 1,679 名，10,581 名，19,988 名を数え，管区数は 20，29，37（ヨーロッパ内に限れば 16，21，26）となる」（Demoustier, 1997, p. 12；坂本，2013，p. 66）。これだけの学校を統一的に運営するためには優れた規程が必要であろう。イエズス会の最初の本格的なコレージュがパリ大学を手本に 1548 年イタリアのメッシーナに作られた後（高祖，2020；桑原，2020），半世紀にわたる教育経験・経営経験を踏まえた上で「イエズス会学事規程」最終版が 1599 年に発行された。しかし 1586 年，1591 年のバージョンもあり，各管区から寄せられた要望や問題点を長期にわたって吟味・検討した結果であったのは ,「イエズス会学事規定」冒頭の「送付状」に明記されている（例えば Farrell, 1970, p. xii-xiii）。「イエズス会学事規定」は世界中のイエズス会の教育活動を参照したものだから，表 1 の有馬の学生リストにおいてもヨーロッパと同様の評価原則が用いられていると考えることができよう（Cieslik, 1966, p. 28）。「学事規程」は教育史上非常に有名なものであるが，前述のとおり「評価法」の観点からよく研究されたとは言えないだろう。

2.2　イエズス会コレージュはどのような学校だったのか？ フランスの場合

イエズス会が設立したコレージュは初等教育，中等教育，高等教育の中で，主として中高等教育を担当した（高祖，2020，p. 37）。そもそもコレージュには，大学付属のコレージュや修道会系のコレージュのなど様々な系統があった（梅根，1975，p. 64）。イエズス会学校はまずイタリアを中心に設立され，フランスでの設立は 1556 年が最初で，その後 1563 年パリに教会，大学，高等法院の反対を押し切ってクレルモン学院が出来たという（久保田，2017）。イエズス会の全歴史を通じてフランスの国内諸勢力との関係は必ずしも良くなかった。イエズス会はローマ教皇に従う組織であるのに対し，フランスにはガリカニスムとよばれるフランスの教会をフランス国王の統制下におこうという力が働いたからだという。イエズス会がフランスに入り込むと，大学のコレージュの学生は大学を捨ててイエズス会のコレージュに殺到したという（デュルケーム，2002，p. 473）。デュルケームによればこの異常とも言うべき成功の原因はイエズス会が無料で教育したことと，「その価値が認められ，他の教育よりもよいと判断されたからであり，それが時代の趣向や要求に応じていたからでもある。」（p. 475）とのことである。デュルケームはさらに（フランスにおいて）17 世紀，18 世紀のもっとも偉大な人々は，すべてジェスイット（イエズス）会のコレージュで学んだ人々であったとまで言う（p. 477）。確かに久保田（2007，p. 32）を引用すれば「聖フランソワ・ド・サル，ベリュル，サン＝シラン，メルセンヌ，ゲズ・ド・バルザック，デカルト，コルネイユ，コルベール，モリエール，ボシュエ，フェヌロン，ジャン＝フィリップ・ラモー，ヴォルテール，ディドロ……」といった具合である。

2.3　イエズス会学校と学事規程の使われ方

コレージュの中でもデカルトが学んだラフレーシュ（La Flèche）学院は特に有名である（図 1）。

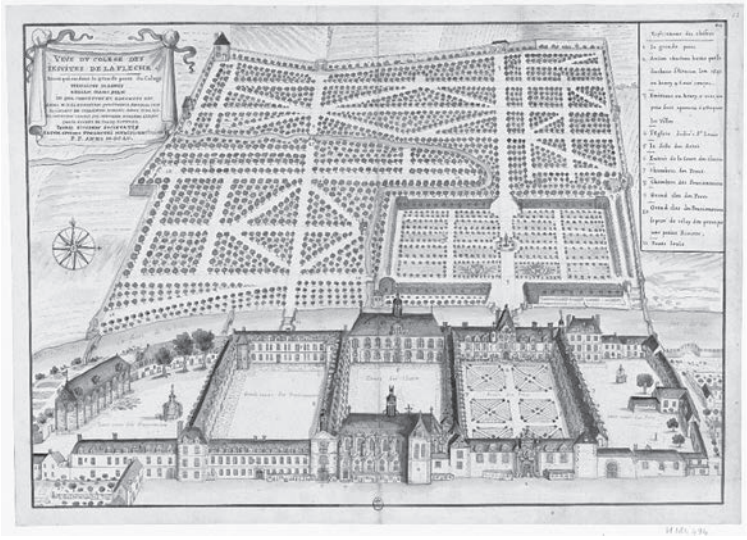

図１　デカルトも学んだイエズス会ラフレーシュ学院
Vue du Collège des Jésuites de La Flèche (Boudan, 1695)
出典　https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vue_du_Coll%C3%A8ge_des_J%C3%A9suites_de_La_Fl%C3%A8che_(Boudan,_1695).jpg

ラフレーシュはロワール地方の町であり，デカルトは 1607 年 -1615 年の間（11 歳から 19 歳まで），寄宿生とし勉学した。創立は 1604 年で正式名称は「ラフレーシュ・アンリ四世王立学院　Le Collège Royal Henri IV de la Flèche」であり，建物は元々アンリ四世（Henri IV, 1553–1610）の邸宅である。アンリ四世とイエズス会は元々は敵対していたので奇妙なマッチングであるが，アンリ四世の政治的離れ業の結果であろう（山田，2002；久保田，2007）。デカルトは「方法序説」でこの学校について「ヨーロッパで最も名高い学校の一つであり，この地上のどこかに学識ある人がいるのならば，ここにこそいるはずだ，と私は思っていた」と述べている（谷川訳，p. 12）。

ラフレーシュ学院の様子や生徒「デカルト」については多くの解説があり（田中，1989；相馬，2001；山田，2002；久保田，2007，2017），イエズス会学校が非常に競争的な環境だったのは尾中（1989）やデュルケーム（2002）に詳しい。生徒「デカルト」に対しても「学事規程」に従って成績がつけられた筈であり，もし見つかれば大発見である。

ラフレーシュ学院については Rochemonteix（1889）による詳細な研究があるが，ただ残念なことに成績関係の記録はあまり残されていないようである。アリエス（1960，p. 210）によれば，そもそも名簿のようなデータは稀だそうである。Rochemonteix は類似したイエズス会学校であるフランスの Caen にあった Collège du Mont の，デカルトよりかなり時代を下ることになるが，1677 年と 1692 年の成績記録を調べている（表 2）。特に Rochemonteix（1889, vol. 4, pp. 348–350, https://iris.univ-lille.fr/handle/1908/975）には成績表そのものがいくつか提示されている。この成績表では「学事規程」とは異なる記号が用いられているが Grading という点では同じである。

表 2　フランスのあるイエズス会系コレージュ（Collège du Mont）での成績評価（1677）

名　前	年齢と才能	在学年数	行動と出席	ラテン語散文	ラテン語韻文	ギリシャ語	文法規則（praecepta）	教師の判定	試験官判定	総合判定
Joannes d'Herouville.	14 歳 小才	3	良い人柄 よく勉強した	me	me	me	まあまあ	A	AAA	A
Joan. de la Porte.	13 歳 才気あり	2	敬虔　勤勉	A	B	A	素早く学ぶ	A	AAA	A
Joseph. Saillanfest.	16 歳 鈍い	4	奔放 欠席多し	ma	ma	me	勉強不足	M	MMD	M
Joseph. de Launay.	14 歳 才能あり	3	疑いあり 病気だった	B	B	A	良い位置を占めた	A	AAA	A
Ludov. de Bretteville.	16 歳 普通	1	体調が悪いと遅刻	me	me	me	勉強不足	D	DDD	D
Mich. Robillard.	15 歳 あまり才能無し	1	顕著に敬虔 勤勉	me	me	ma	クラスでビリ	M	MMM	M

訳は試訳である。第 5 列から 7 列　A＝秀　B＝優　me＝良　ma＝不良
第 9 から 11 列　A＝進級　M＝留年　D＝未決　第 9 列は教師の判定，第 10 列は三人の試験官の判定，第 11 列は総合判定である。第 8 列の Praecepta とは Emmanuel Alvarez のラテン語文法書での「法則」であり，文法規則と訳しておいた。ロバート・キエサ（2023，p. 15）参照

表 3　表 2 の元表（1677）　Rochemonteix（1889）vol. 4，p. 349

TERTIÆ 1 NOMINA.	ÆTAS ET INGENIUM.	TEMPUS SCHOLÆ.	MORES ET FREQUENTIA.	SOLUTA ORATIO.	STRICTA ORATIO.	GRÆCA.	PRÆCEPTA.	JUDICIUM PRÆCEPT.	JUDICIUM EXAMIN.	ULTIMA CENSURA.
Joannes d'Herouville.	14 an. ingenio modico.	3 an.	optimis moribus benè studet.	me	me	me	modicè eruditus.	A	AAA	A
Joan. de la Porte.	13 an. ing. acuto.	2 an.	pius et assiduus.	A	B	A	callet omnia commodè.	A	AAA	A
Joseph. Saillanfest.	16 an. ingenio obtuso.	4 an.	liberioris vitæ sæpe abfuit.	ma	ma	me	fermè omninò imperitus.	M	MMD	M
Joseph. de Launay.	14 an. ingenio peracri.	3 an.	dubiis moribus diù ægrotavit.	B	B	A	inter scholæ primos loca obtinuit.	A	AAA	A
Ludov. de Bretteville.	16 an. ingenio mediocri.	1 an.	benè moratus assiduus quoad licuit per valetudinem.	me	me	me	perparum eruditus.	D	DDD	D
Mich. Robillard.	15 an. ab ingenio non benè constitutus.	1 an.	pietate inclytus et assiduus.	me	me	ma	vulgò inter scholæ ultimos.	M	MMM	M

2.4 「イエズス会学事規程」にお手本やモデルは無かったのだろうか？

「学事規程」全体や，「学事規程 38 条」が，イエズス会のオリジナルでなく他の機関・組織からの借用である（Herman, 1914; McGucken, 1932）可能性は無いだろうか？ この場合可能性を考えなければいけないのはまずは「パリ大学」特にその中のモンテギュ学院（Collège de Montaigu），

そして Devotio moderna「新しい敬虔」という運動から生まれた「共同生活兄弟会」（Fratres vitae communis; The Brethren of the Common Life）である（羽場，1986；桑原，2013）。

2.4.1　まずパリ大学だが，イグナティウス・ロヨラを始めとするイエズス会の創始者たちはパリ大学の出身であり，また前述のメッシーナのコレージュ設立の際はパリ大学を参考にパリ方式（Modus Parisiensis）が用いられたのはよく知られている（桑原，2020）。また Codina（2000, p. 42）によれば，「共同生活兄弟会」はパリ大学の特にモンテギュ学院を通じて，「パリ方式」に教育的および精神的な影響を与えており，「共同生活兄弟会」がパリ大学を通じて間接的影響をイエズス会の教育法に及ぼした可能性も考慮する必要がある。

パリ方式とは Farrell（1938, pp. 32–33）や高祖（1987，pp. 46–48）をまとめれば

1．生徒はラテン語文法の基礎をしっかりと身につける。
2．生徒の能力に応じてクラス分けが行われ，各クラスには個別のグレードが与えられ，個別の教師が配置される（Codina, 2000, p. 36 も参照）
3．最下位の文法から始めて，まず人文科と修辞学，次に自由学芸（哲学，数学など），そして神学という順番で学習を進める。ただし，一時期には一科目のみ，順番に最下位クラスから学習する。
4．生徒は授業に熱心に出席しなければならず，教授の都合，地域の慣習，学生の気まぐれによって内容の無い講義をしてはならない。
5．教授には多くの演習が伴う必要がある。反復，議論，記憶，および作文が非常に重要である。

というわけで，現在のどこの学校にでも当てはまりそうなものもあり，「学事規程 38 条」に直接関係するものは無さそうである。

パリ大学は褒賞型の評定には冷淡だったという形跡もある。例えば「学位を得るに際してえた「栄誉」といえば，ただこの「式場」での上席あるのみであった」（ラシュドール，大学の起源（上），p. 54）。という訳で「学事規程」の「評定」部分の直接の先駆者は見つけられていない。

2.4.2　「共同生活兄弟会」とは 14 世紀にオランダのフローテ（Geert Groote, 1340–1384）によって始められた Devotio moderna（「新しい敬虔」あるいは「新しい信仰」）という運動から生まれた組織で，元々修道院ではないが共同生活を営むものである。フローテの仲間の Cele という教育家に注目する向きもある。この会の出身者にはエラスムス（Desiderius Erasmus, 1466–1536），クザーヌス（Nicolaus Cusanus, 1401–1464），ルター（Martin Luther, 1483–1546）のような重要人物がいる（羽場，1986，p. 296）。

ロヨラは宗教生活に入ったごく初期からこの会の影響をうけており，イエズス会の「戒律書」とでも言うべき「霊操」は「新しい敬虔」運動の精神に触発されたという（五野井，2012，p. 16）。さらにロヨラはパリ大学で学ぶ際に所属していたモンテギュ学院を通じて「新しい敬虔」や「共同生活兄弟会」の影響を受けていたと言われる（桑原，2020，p. 122.）。Codina（2000, p. 44）は，「いずれにせよ，「共同生活兄弟会」のさまざまな教育法がモンテギュ学院を通じてイエズス会の教

育法に取り入れられたこと，そしてモンテギュ学院がロヨラにとって「新しい敬虔」と再接触する機会となったことは確かである。」と断言する。

2.4.3　しかしこれらの学校・組織で「学事規程 38 条」のような評定尺度が使われたという証拠はなさそうである。ただし，先ほどパリ方式の説明の 2 番目で述べたとおり，習熟度別にクラス分けをするということは一種の評価，あるいは評価に分類という行動が伴ったもの，と考えることも出来るかもしれない。また別タイプのクラス分けもあり（桑原，2020，p. 120），すなわち文法クラスは人数が多いので，10 人ごとの班（decuriae）に分けられた。この班の制度はパリ大学モンテギュ学院に由来するが，その前史は「共同生活兄弟会」の学校まで達すると言う（Codina, 2000, p. 42–43）。

結局のところ「学事規程 38 条」に明白な先駆があるかどうかは不明である。ただ，ルーヴァン大学で 1441 年に rigorosi（優），transibiles（良），gratiosi（可），名称のない不可，の 4 段階評価が行われていたというという記録がある（ラシュドール，大学の起源（中），p. 250）。相当に古いものでイエズス会の評定尺度に似ているが両者の関係は不明である。しかし，Schwickerath（1911）によれば，「学事規程」の作成に関与したイエズス会士の何人かは，オランダ出身か，オランダの最も有名な学校で学んでいたという。当然ルーヴァン大学は含まれるであろうから，将来何らかの連関が見つかるかもしれない。

3．日本のイエズス会学校での評価法は？

冒頭の表 1 で有馬のセミナリヨの名簿と成績を示した。セミナリヨでは厳しい規律の元，ラテン語，神学の初歩，音楽，日本文学などが教えられ，一方週末の遠足などの余暇もあった。学校の生き生きとした描写は片岡（1970）や長崎県教育委員会（1987）を参照されたい。表 1 の元は表 4 である。

氏名・出身地などと共に，日本語と，音楽の成績が optime（秀），bene（優），mediocriter（良），moderate（可）という 4 段階で評価されている。表 4 の原文はローマ・イエズス会文書館にあるという（Schütte, 1975, p. 264）。有馬のセミナリオ建設構想策定委員会（2005）の巻頭イラストに手書きの原板の写真があり題名は「1588 年ミヤコとシモのセミナリオが合併した時の名簿の一部」（H. チークスク師提供 長崎純心大学蔵）である。これと同じ（と思われる）写真が 1966 年の「キリシタン研究」，11，p. 12，片岡（1970）の巻頭イラスト，長崎県教育委員会（1987）の p. 35 にもある。

表 4 のカタログは最近発見されたものではない。有馬のセミナリオ建設構想策定委員会（2005，p. 256）では柳谷（1966）が引用されておりこの論文に同様のカタログがある。さらに柳谷（1966）は Delplace（1909）を引用しておりここにも同様のカタログがあり（p. 215），その題名は “Catalogus eorum qui in Miacensi & Arimensi Seminario degunt qui omnes modo in Arimensi sunt congregati anni 1588.”（「1588 年に全員が有馬に集まったばかりの，ミヤコとアリマのセミナリ

表４　表１の元表（1588 年）「有馬のセミナリオ」関係資料集　p. 64　有馬のセミナリオ建設構想策定委員会，2005.

【原文：1588 年のセミリナヨの学生名簿】

Cathalogus eorum qui in Miacensi et Arimensi Seminario degunt qui omnes modo in Arimensi sunt congregatim, anni 1588

Jap Sin 25, ff. 17-18v

	Nomen & Cognomen	Patria	Aetas	Vires	Tempus seminarii [&] studiorum
1	Mizóguchi Augustinus	Vomura	20 annos	Robustus	Ingressus anno 1580, est lector 2ae classis gramaticae, musicam et japponicas litteras bene callet
2	Nixi Romanus	Arima	19 annos	Robustus	Ingressus anno 1580, grammaticam in prima classe audit, musicam et japponicas litteras mediocriter callet
3	Quita Paulus	Arima	18 annos	Robustus	Ingressus anno 1580, grammaticam in prima classe audit, musicam optime, japponicas litteras mediocriter callet
4	Votavu Mansius	Vomura	20 annos	Robustus	Ingressus anno 1581, grammaticam in prima classe audit, musicam bene, japponicas litteras mediocriter callet
5	Foriye Leonardus	Firando	17 annos	Robustus	Ingressus anno 1581, grammaticam in prima classe audit, musicam bene, japponicas litteras mediocriter callet
6	Minaxi Mathias	Vomura	15 annos	Robustus	Ingressus anno 1581, grammaticam in 2a classe audit, musicam et japponicas litteras moderate callet

64　4.「1588年のセミナリヨの学生名簿」

ヨの生徒のカタログ」）である。イエズス会の日本関係の最も信頼できる文書集と言える Schütte（1975）にも同じカタログがあり（p. 264），また Jap Sin 25, ff. 17–18v という資料番号とおぼしき記号がある。有馬のセミナリオ建設構想策定委員会（2005, p. 64）のカタログは Schütte（1975）あるいは Delplace（1909）を引用したもののようである。

Delplace の本は 1909 年発行であるから，このカタログはイエズス会関係者以外でも 100 年以上前からアクセス可能だったことになる。ちなみに Schütte（1975）は Delplace（1909）に言及して

いる（p. 232）。

3.1　1588 年の名簿が作られるまでの経緯

表 1（あるいは表 4 ）の題名の意味が理解できるように，作成されるに至った事情について述べたい。参考にしたのは主として長崎県教育委員会（1987），五野井（2012）である。歴史は専門ではないので誤りがあればご容赦いただきたい。

フランシスコ・ザビエルによるキリスト教の布教は 1549 年に開始された。ザビエル自身はすぐに日本を離れたが（1551），他のイエズス会士によるその後 30 年間の活動はまずまずの成功を収めたと言えよう。ザビエル来日の 30 年後の 1579 年，イエズス会東インド管区の巡察師アレッサンドロ・ヴァリニャーノ（Alessandro Valignano, 1539～1606）が島原半島の口之津に上陸した。巡察師とはイエズス会の総会長にかわって，ある地方での布教を指導する役職である。ヴァリニャーノは日本での布教活動の総責任者であり，日本の国情をよく観察し（ヴァリニャーノ，日本巡察記，松田ら訳，1973）それに合わせて布教計画を立てた。彼は布教を加速させるための活動方針の変更を行った。適応主義と呼ばれ，その要点はヨーロッパ人と日本人の平等視，日本文化への適応，学校の設立である（桑原，2017，p. 74）。また彼が 1582 年に天正遣欧少年使節を派遣したのはよく知られている。

布教方針決定のために早速会議が行われたが，ここで教育問題が重要議題となった。ザビエルの来日から 30 年，布教活動も長崎から京畿地方まで広がり，信徒も 10 万人を数えるようになり，権力者との関係も悪くはなく，まずまずの成果とも思える。しかし，更なる発展を目指すには，宣教師は 55 人しかおらず，日本人司祭は 1 人もいないという状況なので，宣教師不足の解決のため適応主義に従い日本人司祭を育てる必要があり，中等教育機関セミナリヨ（Seminario）や高等教育機関コレジヨ（Colegio）が必要となってきた。

ヴァリニャーノは，来日の翌年 1580 年 6 月には教育機関の設立を決定し，その年のうちに中等教育を担うセミナリヨが有馬（現南島原市）と安土（現近江八幡市）に，高等教育を担うコレジヨが府内（現大分市）に設立された。ヴァリニャーノは布教の組織化のために，日本を京畿，豊後，下（シモと発音。豊後を除く九州の諸地方）の三布教区に分けたので，有馬のセミナリヨは「シモのセミナリヨ」，安土のセミナリヨは「ミヤコのセミナリヨ」と呼ばれるようになった。

ところで 1579 年のヴァリニャーノの上陸地点は口之津港（南島原市）であり，当時は有馬氏の領国であった。ヴァリニャーノは，若い領主有馬晴信（1567–1612）に強い感化を与えたのだろう。有馬晴信はヴァリニャーノ来日後わずか半年の 1580 年 3 月には洗礼を受けた。フロイスの日本史によれば，この頃有馬氏は隣国の竜造寺氏の攻撃により滅亡一歩手前まで行っており，イエズス会から軍事援助さえ受けたと記録されている（フロイス，松田・川崎訳，第 10 巻，pp. 146–147）ので，このような政治的状況も関係するかもしれない。

洗礼を受けた晴信はヴァリニャーノの教育計画を積極的に援助し，迅速に有馬のセミナリヨの校

舎が建てられた。最初の入学生は 22 名で，その中には 2 年後に有名な「天正遣欧少年使節」としてヨーロッパを訪問する，中浦ジュリアン，原マルチノも含まれていた（五野井，2012，p. 115）。同じ年に，安土のセミナリオは織田信長の保護の下，22 名の生徒で城下町に開設された。三階建て茶室付き純和風建物で，安土城と同じ青い瓦が用いられたという。図 2，図 3 は後年「天正遣欧少年使節」を迎えることになるグレゴリオ 13 世の業績を称える本に描かれていた有馬と安土のセミナリオである。もちろん想像図であろうし，図 1 ほど立派ではないが，学校の存在そのものはヨーロッパにも知られていたわけである。

しかしセミナリヨの前途は順風満帆ではなかった。ミヤコのセミナリヨは 2 年後の本能寺の変（1582）の後，明智光秀の安土攻撃のため灰燼に帰した。そこで京畿地方を転々とすることになるのだが，大坂に移転し軌道にのったところで，今度は 1587 年に豊臣秀吉の「伴天連追放令」が発布されたのである。そこで，ミヤコのセミナリヨは 1587 年 11 月に有馬に移ってシモのセミナリヨと合併することになり名簿が作られ，生徒数は 70 名を数えた。表 1，表 4 は以上のような経緯を経て作られたものである。

3.2　イエズス会の影響

イエズス会の教育評価システムが現在の評価システムに影響を与えたと言えるのだろうか？ 西洋教育史上でのイエズス会を見れば，先に述べたデュルケームの評価を始め，「イエズス会こそ，アンシャン・レジーム，ことに一七世紀から一八世紀中葉の時期のフランスの教育を支配したものであったといっても過言ではなかった」（梅根 , 1975, p. 72），「17 世紀のフランス教育界を支配したのはイエズス会である。」（長尾，1978，p. 82）という評価があり，また，前述のとおり傑出した人々がイエズス会学校で学んだのも事実である。フランス・イタリア・スペインといった国々で成功した教育システムが，時間・空間を超えてインパクトを与え続けるのはありうることだろう。イエズ

図 2　有馬のセミナリヨ（想像図）
Ciappi, M. (1596). p. 40

図 3　安土のセミナリヨ（想像図）
Ciappi, M. (1596). p. 40

ス会の遺産と言えるものはあるのか？ それとも現在の教育にまで影響を与えているというのは言い過ぎであろうか？

このように言うのは根拠が無いわけではない。キリシタン時代の南蛮文化の影響がそれなりに大きかったのは事実であろう。そしてイエズス会は今で言うところの理数系の知識も重視していた。宗教団体が，科学的知識を重視するというのは考えづらいかもしれないが，「学事規定」でも算術，幾何，天文を学ぶことになっている。イエズス会学校の中心であるローマ学院には天文学・数学の大家クラヴィウス（Christopher, Clavius, 1537–1612）がおり，グレゴリオ暦の制定という大事業を達成している。デカルトがクラヴィウスの本で勉強したという証拠もある（武田，2022，p. 50）。イエズス会は科学発展の一翼を担っており，中国ではマテオ・リッチ（Matteo Ricci, 1552–1610），日本ではスピノラ（Carlo Spinola, 1564–1622）が数学・天文学で活躍した。この二人と巡察使ヴァリニャーノはクラヴィウス門下である（松田毅一，1973，p. 240）。海老沢（1958b, p. 70）はスピノラによって 1605 年ごろから数年間，京都に数学・天文学のアカデミアが設けられたのを指摘し，そこから和算の発展に西洋数学やイエズス会が関わっているという説が出てくる（平山，1993）。

先に述べた通り，高等教育を行うコレジョは府内（大分市）に 1580 年に設立されたわけだが，この学校用の教科書として「講義要綱」（Compendium）が，ペドロ・ゴメス（Pedro Gomez, 1533–1600）によって 1593 年ラテン語で執筆され，1595 年には日本語版もできた。内容は三部構成であり，第一部は天文学の「天球論」，第二部は「霊魂論」，第三部はキリスト教の教義である（高祖，1998；五野井，2012，p. 127）。ペドロ・ゴメスはクラヴィウスを教えたという説があるほど科学に通じており（森，2001，p. 83），従って「講義要綱」は手抜きなしの正統的な本だったと言えよう。この書物は科学・文化・教育どの分野から見ても重要だが長い間失われ幻の書となっていた。ところが驚くべきことに執筆後約 350 年経過した 1937 年に，ラテン語の手稿本がヴァティカン図書館のクリスティーナ（Kristina Alexandra, 1626–1689）スウェーデン元女王の寄贈図書の中からシュッテ（Schütte）神父により発見された。ちなみにクリスティーナは宮廷に家庭教師として晩年のデカルトを招いたので有名である。そしてデカルトがイエズス会学校の出身なのはなにかの因果であろうか？ さらに驚くべきことに今度は日本語の手稿本が発行 400 年後の 1995 年になって，イギリス・オックスフォード大学モードリン・カレッジ（Magdalen College）図書館で発見された（高祖，1998）。発見者はヴァリニャーノ研究者のウセレル（Üçerler）神父である（ウセレル，2020）。さて「天球論」は日本人天文家に大きなインパクトを与えたようで「二儀略説」という 1715 年の奥書を持つ本と「天球論」の構成と内容が一致しているのが知られている（五野井，2012，p. 130）。

4．終わりに

「講義要綱」「和算」のように南蛮文化が我が国に大きなインパクトを与えた例は多く，そのためかキリシタン時代の南蛮文化については長い研究史がある。新村（1941）の 80 年前の書には，キ

リシタン科学の，医学，農学，天文学，航海術，造船，数学，測量学，地理学，暦算学，鉄砲・兵術　等に対する影響が挙げられている。キリシタン文化に注目すれば，例えばカステラのようなお菓子が現在も食文化として生き続けている（岡，2016）。

それでは教育評価法はどうだろうか？ 海老沢（1958b，p. 58）は「十六世紀中期に始められたイエズス会の布教は，従って同時に日本における新しい教育の始まりでもあった。教育機関として組織的に行なわれたのは，僅か数十年にすぎなかったけれども，その斬新な教育方法，伝えた思想・文化において，日本文化史上・教育史上，特筆さるべきものがある。」と絶賛する。そしてイエズス会の 6 段階評価や有馬のセミナリヨの 4 段階評価は，現在使用されている段階評価法と非常に類似している（椎名，2022，2023）。そうならば，イエズス会の教育制度や教育文化が日本国内に痕跡を残したのだというシナリオを考えたくなるが，やはり長期間にわたり弾圧されることになる文化が生存するのは難しいだろうし，直接的証拠があるわけでもなく，「講義要綱」発見級の新情報が必要だろう。

これに対して，イエズス会の教育評価法が欧米経由で間接的に明治期の日本に影響を与えたというルートはずっと可能性が高い。1872 年の「学制」ではフランスや米国の影響が強いのはよく知られている（文部省，1972）。そして例えば米国の Yale 大学では 1785 年に Optimi, Second Optimi, lnferiores, Pejores という 4 段階尺度が使われていたという（椎名，2022）。しかし，近代教育評価法の本家であるアメリカはイエズス会を含むカトリックの盛んな国ではなく，その元宗主国である英国もカトリック勢力としばしば戦った。一方フランシス・ベーコン（Francis Bacon, 1561–1626）のようにラフレーシュ学院を称えた英国知識人もいる（山田，2002）。この問題は将来の課題となるが，17, 18 世紀の欧米での動向をさらに調べる必要があるだろう。

付記

本研究は JSPS 科研費 JP22K03061 の援助を得た。

［文献］

天野正輝（1993）．教育評価史研究　東信堂.

アリエス，P.（1960）．〈子供〉の誕生：アンシァン・レジーム期の子供と家族生活　杉山光信・杉山恵美子（訳）（1980）．みすず書房.

有馬のセミナリヨ建設構想策定委員会（2005）．「有馬のセミナリヨ」関係資料集　北有馬町.

Ciappi, M. (1596). *Compendio delle heroiche, et gloriose attioni, et santa vita di papa Greg. XIII*. Roma, Nella stamperia de gli Accolti.

Cieslik, H. (1966). セミナリヨの教師たち　キリシタン研究，11，27–138.

Codina, G. (2000). *The "Modus Parisiensis"*. In V. J. Duminuco (Ed.), The Jesuit Ratio Studiorum: 400th anniversary perspectives (pp. 28–49). New York: Fordham University Press.

Demoustier, A. (1997). Les Jésuites et l'enseignement à la fin du XVIe siécle, in *Ratio studiorum : Plan raisonné et institution des études dans la Compagnie de Jésus*, Édition bilingue latin-français, présentée par A. Demoustier et D.

Julia, traduite par L. Albrieux et D. Pralon-Julia, annotée et commentée par M.-M. Compére (pp. 12–28). Belin : Paris.
Demoustier, et al. (1997). *Ratio studiorum* : *Plan raisonné et institution des études dans la Compagnie de Jésus,* Édition bilingue latin-français, présentée par A. Demoustier et D. Julia, traduite par L. Albrieux et D. Pralon-Julia, annotée et commentée par M.-M. Compére. Belin : Paris.
Delplace, L. (1909). *S. François Xavier et ses premiers successeurs, 1540–93. Le catholicisme au Japon.* Bruxelles : Librairie Albert Dewit.
デカルト　谷川多佳子（訳）（1997）．方法序説　岩波書店.
DuBois, P. H. (1970). *The history of psychological testing.* Boston: Allyn & Bacon.
Duhr, B. (1896). *Die Studienordnung der Gesellschaft Jesu*. Hedersche Verlagsbuchandlung.
デュルケーム，É.，小関藤一郎（訳）（2002）．フランス教育思想史　行路社.
海老沢有道（1958a）．南蛮文化：日欧文化交渉　至文堂.
海老沢有道（1958b）．南蛮学統の研究：近代日本文化の系譜　創文社.
Farrell, A.P. (1938). *The Jesuit code of liberal education: Development and scope of the Ratio Studiorum*. The Bruce Publishing Company.
Farrell, A.P. (1970). *The Jesuit ratio studiorum of 1599*. Conference of Major Superiors of Jesuits.
フロイス，松田・川崎（訳）（2000）．完訳フロイス日本史 10　中央公論新社.
五野井隆史（2012）．キリシタンの文化　吉川弘文館.
羽場勝子（1986）．デヴォティオ・モデルナと共同生活兄弟会　上智大学中世思想研究所（編）ルネサンスの教育思想（上）（pp. 295–324）．東洋館出版社.
橋本昭彦（1993）．江戸幕府試験制度史の研究　風間書房.
Herman, J. B. (1914). *La pédagogie des Jésuites au XVIe siècle*. Louvain : Bureaux de recueil.
平山　諦（1993）．和算の誕生　恒星社厚生閣.
池田　央（1978）．テストで能力がわかるか　日本経済新聞社.
梶田叡一（1992）．教育評価［第 2 版］有斐閣.
片岡千鶴子（1970）．八良尾のセミナリヨ　キリシタン文化研究会．https://dl.ndl.go.jp/pid/12282358/1/1
高祖敏明（1987）．ルネサンスとイエズス会の教育　ピーター・ミルワード　巽豊彦（監修）ルネッサンス時代の教育・思想（pp. 25–59）．荒竹出版.
高祖敏明（1998）．幻の教科書『イエズス会日本コレジョの講義要綱』再発見の旅～その複製本と校註本の刊行が切り開く道筋～　カトリック研究，15，41–47.
高祖敏明（2020）．草創期のイエズス会学校と人文主義教育　桑原直己・島村絵里子編　イエズス会教育の歴史と対話―キリシタン時代から現代に至る挑戦―（pp. 15–61）．知泉書館.
久保田静香（2007）．デカルトとイエズス会学校人文主義教育―よく書くために―　フランス文学語学研究，第 26 号，29–52.
久保田静香（2017）．デカルトとプロギュムナスマタの伝統―イエズス会学校のレトリック教育を経由して―　明學佛文論叢，50，1–40.
桑原直己（2013）．G・フローテとその後継者たち― devotio moderna の霊性史―　倫理学（筑波大学倫理学研究会編），29，1–13.
桑原直己（2017）．キリシタン時代とイエズス会教育―アレッサンドロ・ヴァリニャーノの旅路―　知泉書館.
桑原直己（2020）．『イエズス会学事規定』と「パリ方式」 桑原直己・島村絵里子編　イエズス会教育の歴史と対話―キリシタン時代から現代に至る挑戦―（pp. 99–126）．知泉書館.
松田毅一（1973）．アレシャンドゥロ・ヴァリニャーノの生涯　ヴァリニャーノ著　日本巡察記　の「解題」平凡社.
McGucken, W. J. (1932). *The Jesuits and education: The Society's teaching principles and practice, especially in secondary education in the United States*. Bruce Publishing Co.
文部省（編）（1972）．学制百年史　帝国地方行政学会.
森ゆかり（2001）．イエズス会日本コレジオの宇宙論講義（1）　愛知工業大学研究報告，第 36 号 A.
長尾十三二（1991）．西洋教育史　東京大学出版会.
長崎県教育委員会（1987）．長崎のキリシタン学校：セミナリヨ，コレジヨの跡を訪ねて　長崎県教育委員会．https://

dl.ndl.go.jp/pid/12261876/1/1

岡美穂子（2016）．南蛮菓子の文化的背景　南蛮貿易とカステラ：創業 390 周年記念誌（pp. 65–99）．カステラ本家福砂屋．https://researchmap.jp/read0066505/published_papers/35635251

尾中文哉（1989）．イエズス会修道士学校の試験制度についての社会学的考察―定期試験の誕生―　教育社会学研究，44，119–131.

Pavur, C. N. (2005). *The ratio studiorum : The official plan of Jesuit education.* Translated and Annotated by Claude Pavur, S.J. The Institute of Jesuit Sources.

Rashdall, H. (1936). *The Universities of Europe in the Middle Ages : New edition edited by F. M. Powicke and A. B. Emden,* Oxford. 3 Vols.

（ラシュドール，H.　横尾壮英（訳）（1968–1970）．大学の起源：ヨーロッパ中世大学史 上中下　東洋館出版社）.

ロバート・キエサ（訳）（2023）．イエズス会の規範となる学習体系：1599 年版：羅和対訳　教文館.

de Rochemonteix, C. (1889). *Un collège de Jésuites aux XVIIe et XVIIIe siècles: Le Collège Henri IV de La Flèche.* Le Mans: Leguicheux, 4 vols. http://hdl.handle.net/1908/975

坂本雅彦（訳）（2005）．『イエズス会学事規程』1599 年版：Ratio atque Institutio Studiorum Societatis Iesu（上）「比較文化」研究シリーズ；no. 5，長崎純心大学比較文化研究所.

坂本雅彦（訳）（2008）．『イエズス会学事規程』1599 年版：Ratio atque Institutio Studiorum Societatis Iesu（下）「比較文化」研究シリーズ；no. 6，長崎純心大学比較文化研究所.

坂本雅彦（2013）．『イエズス会学事規程』（1599）の教育史的評価に関する考察（1）　純心人文研究，19，65–77.

Schütte, F. J. (1975). *Monumenta historica Japoniae*, vol. 1. Roma: Monumenta historica societatis Jesu.

Schwickerath, R. (1911). *Ratio Studiorum*. In The Catholic Encyclopedia. New York: Robert Appleton Company. http://www.newadvent.org/cathen/12654a.htm

椎名乾平（2022）．昔の評定尺度：古代より Likert（1932）までを中心にして　心理学評論，65（1），20–51.

椎名乾平（2023）．GPA（Grade Point Average）の由来についての覚書　学術研究（人文科学・社会科学編）（早稲田大学教育・総合科学学術院），71，103–114.

新村　出（1941）．日本吉利支丹文化史　東京：地人書館.

相馬伸一（2001）．教育思想とデカルト哲学　ミネルヴァ書房.

武田裕紀（2022）．デカルトにおける解析―パッポスとクラヴィウスを通した予備的考察―　追手門学院大学基盤教育機構，第 9 号，33–62.

田中仁彦（1989）．デカルトの旅／デカルトの夢―「方法序説」を読む―　岩波書店.

ウセレル，M. Antoni（2020）．日本語訳におけるアリストテレスとトマス・アクィナス――ペドロ・ゴメスの『イエズス会日本コレジヨの講義要綱』（1593–95）．桑原直己・島村絵里子編　イエズス会教育の歴史と対話：キリシタン時代から現代に至る挑戦（pp. 225–256）．知泉書館.

梅根　悟（1975）．フランス教育史Ⅰ　講談社.

ヴァリニャーノ　日本巡察記　松田毅一・佐久間正・近松洋男（訳）（1973）．平凡社.

山田弘明（2002）．ラフレーシュ学院の挑戦― 17 世紀フランスのコレージュ―　名古屋高等教育研究，2，79–92.

柳谷武夫（1966）．セミナリヨの生徒たち　キリシタン研究，11，139–164.